

登録コード	E2611900	開講年度	2026				
授業科目	体づくり運動					担当教員	瀧 直也
英文授業名	Gymnastics					副担当	大木 雄太
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限		対象学生
講義室	教育第1体育館		授業形態	実技	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				中学校および高等学校における体づくり運動領域における具体的な指導のイメージを形成することができる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				体づくり運動領域における具体的な学習内容について理解することができる。活動の企画・指導・運営のあり方について理解を深め、生涯スポーツ指導者としての実践的指導力を身につける。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	体づくり運動が導入された背景を知り, 教育的意義について理解を深める。 本授業で取り上げる運動の指導上の留意点や教材づくりの視点について, 実技を通して体験的に学ぶ。						
(5)授業計画	第1回: ガイダンス, 体づくり運動の導入の背景と教育的意義 第2回: 体ほぐしの運動 自分や仲間の心と体の関係に気付くための運動 第3回: 体ほぐしの運動 仲間との交流を豊かにするための運動 第4回: 体ほぐしの運動 体の調子を整えるための運動 第5回: 体づくり運動の教材づくりのポイントと指導上の留意点 , 児童・生徒を想定した新しい運動例の考案 第6回: 児童・生徒を想定した新しい運動例の発表(課題) 第7回: 多様な動きをつくる運動 (移動系の運動, バランス系の運動) 第8回: 体の動きを高める運動 体の柔らかさを高める運動, 巧みな動きを高める運動 第9回: 体の動きを高める運動 力強い動きを高める運動, 動きを持続する能力を高める運動 第10回: 多様な動きをつくる運動 (移動系の運動, バランス系の運動) 第11回: 多様な動きをつくる運動 (力試し系の運動, 用具操作系の運動, 動きを組み合わせる運動) 第12回 児童・生徒を想定した新しい運動例の考案 第13回: 児童・生徒を想定した新しい運動例の発表(課題) 第14回: 体づくり運動の教材づくりのポイントと指導上の留意点						
(6)成績評価の方法	・「体育授業で児童・生徒に体づくり運動の指導をするに相応しい知識を獲得」できたかについて, 学期末レポート(40%)で評価する。また, 「ねらいに応じた具体的な運動例を考案すること」ができたかについて, 授業中の発表課題(30%×2回)で評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	)問題の設定が適切である。)その問題の背景を説明できている。)その問題にどのような課題があるのかを指摘できている。)それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法が適切に把握できている。)その上で自分の見解を提示できている。以上)から)の5項目を満たしていれば「卓越している」。4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目を満たしていれば「やや上にある」。2項目を満たしていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・次の回で扱う運動について, 学習指導要領解説書を用いて事前学習を行うこと ・行った運動について, その指導のポイントをまとめておくなど事後学習を行うこと						
(9)履修上の注意	・実技を中心とした授業形態であるため, 授業への取り組みを重視する。						
(10)質問, 相談への対応及び連絡先	授業の前後に随時対応する。緊急の連絡はメールで受け付ける。taki@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	特になし(資料を適宜配布する)						
【参考文献】	小学校学習指導要領解説 体育編 東洋館出版社, 124円 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房, 386円 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房, 478円						